200621024B

厚生労働科学研究費補助金

第３次対がん総合戦略研究事業

がん生存者(Cancer survivor)の QOL 向上に有効な医療資源の構築に関する研究

平成 16 年度～18 年度　総合研究報告書

主任研究者　山口　建

平成 19(2007)年 3 月

目　次

Ⅰ．総合研究報告

がん生存(Cancer survivor)の QOL 向上に有効な医療資源の構築研究　・・・・・・・1
山口　建

II. 研究成果の刊行に関する一覧表　・・・・・・・8

厚生労働科学研究費補助金　第３次対がん総合戦略研究事業

総合研究報告書

がん生存者（Cancer survivor）のQOL向上に有効な医療資源の構築研究

主任研究者　山口　建　静岡県立静岡がんセンター　総長

研究要旨

地域で生活するがん患者やがん生存者にとっては、診療にあたる医療機関の質に関する地域格差とともに、各行政単位に整備されている医療福祉サービスなどの面でも地域格差が存在する。本研究においては、後者に関する地域格差是正を目的として、地域において、がん対策や患者・家族の支援に役立つ医療福祉サービスの実態調査を行った。

研究初年度には、地域医療福祉サービスについて地域格差が存在する要因の分析と、必要なサービスの全体像の把握に努めた。

研究第２年度は、調査する医療福祉サービスの項目について、患者・家族、医療者、行政健康福祉担当者の視点に基づく明確化を図り、66項目を選定した。さらに、調査の標準化を図るために、5市町を対象としたプレ調査を実施した。その結果を踏まえ、アンケート調査と聞き取り調査とを組み合わせた方法を確立し、静岡県内全42市町を対象とした本調査を実施した。

研究第３年度には、実態調査結果の分析により、地域の医療福祉サービスの整備状況の把握に努めた。その上で、がん患者や家族の相談・情報提供窓口については、各市町で不足している部門の代替案を示し、最終的に地域格差を可能な限り減じた各市町別の窓口一覧を完成させた。

次いで、静岡県民、県内の行政機関、医療機関、医療福祉サービス提供団体に対し、本調査で明らかにした各市町別の窓口一覧を提供した。具体的には、静岡がんセンターホームページ（http://www.scchr.jp）のWEB版がんよろず相談Q&Aサイトに、“静岡県民向け情報（http://cancerqa.scchr.jp/people.php）”を設け、平成19年1月末より情報を公開した。また、静岡県内のがん診療連携拠点病院には、相談支援センターでの業務に役立てるために、全ての市町の調査結果を冊子として提供した。

さらに、全国レベルで地域医療福祉サービスの実態を調査し、その地域格差を是正し、さらに、がん患者や家族にとって必要な相談・情報提供窓口一覧の作成に必要な調査手法と調査結果のサンプルを全国の都道府県、市町村、対がん協会、がん診療連携拠点病院などに配布した。

分担研究者名

１．山口　建　静岡県立静岡がんセンター　総長
２．山下　浩介　神奈川県立がんセンター　医長
３．小林　国彦　埼玉医科大学　教授
４．辻　哲也　＊１静岡県立静岡がんセンター　＊２慶応義塾大学医学部　講師
５．奥原　秀盛　静岡県立大学看護学部　助教授
６．石川　睦弓　静岡県立静岡がんセンター　部長
７．吉田　隆子　日本大学　短期大学部　教授
８．堀内　智子　静岡県立静岡がんセンター　疾病管理センター長
９．小野瀬雅也　＊３静岡県立静岡がんセンター　医長

＊１　平成17年４月１日～平成17年９月31日
＊２　平成17年10月１日～平成18年３月31日
＊３　平成17年４月１日～平成18年３月31日

Ａ．研究目的

地域で生活するがん患者やがん生存者にとっては、診療にあたる医療機関の質に関する地域格差とともに、各行政単位に整備されている医療福祉サービスなどの面でも地域格差が存在する。後者の具体例としては、がんに関する情報、セカンド・オピニオン等の実施施設、告知後の心のケア、社会復帰のためのリハビリテーション、在宅支援、医療費、医療費補助などの医療福祉サービスがあげられる。これらのサービスは、高度がん専門医療機関ですべてが提供されている場合もあるが、一般の総合病院などでは、すべてがそろわず、望

んでもサービスを受けることができないことも多い。さらに、患者や家族が、社会にそのようなサービスが存在していることを知らず、必要とされる時期にサービスを受け損じることもある。その解決策の一つは、地域がん診療連携拠点病院の整備を視野にいれながら、まず、地域のがん患者や生存者が必要とするサービスを明確にし、次いで、地域で実施されているサービスについての情報を集め、その上で、不足している部分を拠点病院機能の活用あるいはＩＴ技術の応用などによって補い、可能な限り、地域格差がない均質なサービスの提供を目指すことである。本研究においては、このような医療福祉サービスに関する格差是正を目的として、地域で実施されているがん対策や患者・家族の支援に役立つ医療福祉サービスの実態調査を行った。

本研究の目的は、１）がん患者、生存者、その家族に役立つ医療福祉サービスを実践するために必要な地域医療福祉サービスを明確にすること、２）静岡県の全ての市や町を対象として、地域医療福祉サービスの実態を調査し、整備状況を把握し、不足状態を是正するための方策を考えること、３）住民に対し、これらの医療福祉サービスに関する情報提供手段を検討すること、４）静岡県での経験を生かし、全国レベルで地域医療福祉サービスの明確化を図り、地域格差を是正し、住民への情報提供手段の確立を目指す研究を進めること、の四点である。

本研究によって、地域で整備すべき医療福祉サービスが代替案と共に明確にされ、地域格差を可能な限り是正した状態で、住民が、容易にサービスを利用できる状況が生まれることが期待される。また、“がん”というキーワードで医療福祉サービスを整理することによって、各行政機関の健康・福祉担当者が、自らの行政組織の中で、いかなる医療福祉サービスが実施されているかを把握することが可能となり、新たな負担なしで、医療福祉サービスの質の向上を目指すことができる。さらに、その成果に基づき、全国の市町村において相談窓口や医療福祉サービスの質の向上を目指し、国民が容易にがんに関する医療福祉サービスに到達するための手法を検討することが可能となる。

Ｂ．研究方法

(ア)がん患者や生存者に資する地域医療福祉サービスの選定：

がん患者あるいは治療を終えたがん生存者に役立つ地域医療福祉サービスの項目を、まず、医療技術者が選定し、ついで、がん患者や生存者にとって利用価値の高いものについて、医療技術者、患者会、患者支援団体で討議し、その必要性を明らかにした。

(イ)がんに関する医療福祉サービスの整備状況調査：

がん患者や生存者に必要とされる地域医療福祉サービスの整備、利用状況に関する調査を静岡県内の全市町で進めた。まず、必要なサービスの整備状況について尋ねるアンケート調査用紙を作成し、静岡県内の５市町を対象にプレ調査を行った。ついで、この５市町の担当者に対する聞き取り調査を実施し、アンケート調査により、十分な理解が得られなかった項目や回答が困難な項目等について議論した。さらに、プレ調査の結果に基づき、アンケート調査用紙を修正し、集計結果を分析した後に実施する聞き取り調査の方法について検討を進めた。

以上の検討結果を基に、静岡県内のすべての42市町を対象に、アンケート調査を実施し、その結果を分析した後、すべての市町に聞き取り調査を実施した。

(ウ)がんに関する地域医療福祉サービスの実態調査結果の分析：

静岡県内の全市町について明らかにされた医療資源とサービスの整備状況に基づき、各市町における過不足を明らかにした。ある種のサービスが提供されていない市町については、その必要性を考慮し、必要であるが整備されていない場合には、代替案を検討し、その上で、改善後の各市町の医療福祉サービス一覧を確定した。

(エ)医療機関、医療福祉サービス担当者、住民への情報提供：

各市町のがん患者、生存者、家族のための医療福祉サービス一覧が完成した後、それを各市町の住民に情報提供する手段について検討を行った。

(オ)全国的規模での地域医療福祉サービスの整備：

本研究によって明らかにされた、がん患者、生存者、その家族等に役立つ医療福祉サービス調査の手法、住民への開示方法などを明示することによって、全国各地域での調査が容易となり、地域住民に整備状況を明確にすることができる。この目的で、全国の市町村への情報提供について検討を進めた。

(カ)がん患者自立支援プログラムの研究：

がん患者のための、新しい自立支援プログラムに関して、症状・副作用・後遺症を克服する身体

機能回復・維持に役立つリハビリテーションプログラムの開発を進めた。

（倫理面への配慮）
本研究は、地域の医療資源について調査することを主眼としており、個人を対象とする研究は想定していない。

C．研究結果
1）がん患者や生存者に役立つ地域医療福祉サービス調査項目の選定：
がん患者や生存者に役立つ医療福祉サービスを、「医療機関」、「医療福祉行政」、「患者会・患者支援団体」、「地域社会・職場」、「保険会社等の民間資源」等に分け、がんに関する医療福祉サービスを実施するために重要な項目について検討した。地域医療福祉サービス調査項目の選定にあたっては、すでに、厚生労働省科学研究費補助金、がん研究助成金等の研究で実施してきた「がん体験者の悩みや負担に関する実態調査」、及び、静岡がんセンターで実施しているがんよろず相談データベース、患者満足度調査などをもとに、調査項目の洗い出しを行い、地域がん診療連携拠点病院や患者会等の意見を入れ、さらに、分担研究者の活動拠点における状況も勘案しながら、項目を選定し、がん予防（禁煙・防煙対策、食育等、13 項目、17 設問）、がん検診（がん検診実施状況等、6 項目、15 設問）、がん診断（住民相談、セカンド・オピニオン等、4 項目、8 設問）、治療～社会復帰～緩和ケア（医療機関、在宅療養、医療費助成、生活支援等、11 項目、21 設問）、その他（市町内遠隔地状況等、5 項目、5 設問）という合計 66 の質問項目を確定した。
2）地域医療福祉サービスの調査方法の確立：
まず、調査の標準化を図るために、5市町を対象としたプレ調査を実施した。その結果を踏まえ、アンケート調査と聞き取り調査とを組み合わせた方法を確立し、静岡県内全42市町を対象とした本調査を実施した。さらに、その経験に基づき全国の市町村で実施可能な調査方法を確立した。
3）市町村別医療福祉サービス一覧の完成：
調査結果の分析により、静岡県内全市町における医療福祉サービスの整備状況が把握された。その結果に基づき、整備が不十分なサービスについては代替案が提示され、全市町のがん患者・家族に対する医療福祉サービスについて、最終的に地域格差を可能な限り減じた各市町別の窓口一覧を完成させた。
4）情報提供：
静岡県民、県内の行政機関、医療機関、医療福祉サービス提供団体に対し、本調査で明らかにした各市町別の窓口一覧の提供に努めた。静岡がんセンターホームページ（http://www.scchr.jp）のWEB版がんよろず相談Q&Aサイトに、“静岡県民向け情報（http://cancerqa.scchr.jp/people.php）”を設け、平成19年1月末より情報を公開した。また、静岡県内のがん診療連携拠点病院には、相談支援センターでの業務に役立てるために、全ての市町の調査結果を冊子として提供した。
5）医療福祉サービス調査の全国的普及：
全国レベルで地域医療福祉サービスの実態を調査し、その地域格差を是正し、さらに、がん患者や家族にとって必要な相談・情報提供窓口リストを完成させるため、調査手法と調査結果のサンプルを全国の都道府県、市町村、対がん協会、がん診療連携拠点病院などに配布した。

D．考察
1）がん患者、生存者に役立つ地域医療福祉サービスの明確化：
がん患者、生存者、家族が、長期にわたる診療過程において必要と感じ、求める相談窓口や医療福祉サービスについては、住民の居住地域に応じた地域格差と活用不足により、十分なサービスを享受できない事態が生じている。その原因としては、（1）資源の都市部集中による地域差、（2）国、都道府県、市町村、民間で整備している医療福祉サービスについての情報提供不足、（3）患者・家族の側の情報入手のための能力不足、（4）がんの診断を受けた患者・家族の余裕のなさ、などが考えられる。
本研究では、これらの点についての分析を進め、改善を図るために、がん患者や生存者にとって役立つ地域の医療福祉サービスを明確にする研究を進め、まず、医療技術者が中心になって、地域に存在すべき相談窓口や医療福祉サービス 83 項目を明確にし、ついで、これらの項目のうち、実現可能で、すべての住民が等しく享受すべき項目を、地域がん診療連携拠点病院や患者会等の意見も入れながら、66 項目に絞り込んだ。これらの項目は全国的に同様な調査を実施する場合にきわめて有効な情報となる。
2）地域医療福祉サービスの整備状況調査方法の確立：
本研究によって選択された地域医療福祉サービスについて、調査項目の妥当性を確認し、調査

の標準化を図るために、5市町を対象としたプレ調査を実施し、その結果に基づきアンケート調査票とその後に行われる聞き取り調査の標準化を検討した。こうして実施された本調査では、十分な理解が得られていない項目や誤解に基づき不明確な回答にとどまっていた項目などについて、より明確な回答を得ることができた。この手法は、全国的に同様な調査を実施するためにも有用である。

3）行政組織のがんに関する地域医療福祉サービスについての理解：

市や町の行政組織において、がん患者、生存者、家族に提供可能な医療福祉サービスが整理され、未実施のサービスについては代替案が示された。この結果、行政組織横断的に職員の理解が深まり、窓口の明確化が図られ、がん患者、家族が利用可能な医療福祉サービスに関する情報提供の質の向上が図られた。

4）行政組織における医療福祉サービスの均てん促進：

静岡県内全市町で実施されているがんに関する医療福祉サービスの市町間評価が可能となった。この結果、地域に不足しているサービスが明確となり、不足分についての対策が可能となり、サービスの改善、均てんが図られた。

5）医療機関における医療福祉サービス窓口把握：

調査結果ががん診療連携拠点病院や地域医療機関に提供されることによって、相談支援センターや医療相談を訪れるがん患者や家族に、行政が実施する様々な医療福祉サービスを的確に紹介することができるようになった。

6）がん患者のＱＯＬ向上：

調査結果は、WEB を介して地域住民に開示された。また、一部の市町では積極的に住民に情報提供される予定である。この結果、地域住民が医療福祉サービスの状況を把握し、インフラのさらなる向上を要望できる。この結果、がん患者、生存者、家族が社会生活を送る上での QOL の向上が図られた。

7）地域医療福祉サービス調査の全国への波及：

本研究で確立されたアンケート調査票と聞き取り調査とを合わせた手法により、全国のモデル市町村で地域医療福祉サービスに関する調査を実施することができる。こうして、国民が適切な医療福祉サービスに容易にアプローチすることが可能となる。この目的のため、調査方法、調査報告書、がんについての相談・情報窓口のサンプル版が全国の都道府県、市町村、対がん協会、がん診療連携拠点病院などに配布され、検討が始まっている。

E．結論

がん患者や生存者に必要な地域の各種相談窓口や医療福祉サービスの調査項目を明確にした上で、静岡県をフィールドに市町における整備状況を調査し、地域格差の実態把握に努めた。調査結果は、住民、医療機関、行政機関に提供された。また、本調査を全国的に普及させる手法が確立された。

F．健康危険情報

現時点では、患者、家族と接触することが無く、明らかな健康危険情報はない。

G．研究発表

1．論文発表

（外国語）

1 Kobayashi K, et al. Validation of the care notebook for measuring physical, mental and “life well-being” of patients with cancer. Quality of Life Research, 32:265-291, 2005.

2 Yamaguchi K, et al. (Joint Study Group on the Cancer Sociology), The views of 7,885 people who faced up to cancer, (in English, Portuguese, Korean, Chinese), 2006.

3 Yamaguchi K, et al. (Joint Study Group on the Cancer Sociolog), Everything you need to know about cancer: Collection of Q&A No.1 (in English, Portuguese, Korean, Chinese), 2006.

4 Yamaguchi K, Ishikawa M, et al., Cancer patients’ distress and inquiries : proposal of four-level classification based on consultation service and questionnaire survey. Cancer Science, 98:612-616, 2006.

5 Okamoto N, Yamashita K,et al., 5-yYear survival rate for primary cancer site at cancer-treatment-oriented hospitals in Japan. Asian Pacific J Cancer Prev, 7: 46-50, 2006.

6 Yoshimura A, Kobayashi K, et al., Cross-cultural validation of the Japanese Func

tionalAssessment of Cancer Therapy-Anemia (FACT-An). J Nippon Med Sch. IC. 71:314-322, 2004.
7 Tsuji T, et al., Electromyographic findings after different selective neck dissections. Laryngoscope 117: 319-322, 2007.
8 Hase K, Tsuji T, et al., The effect of zaltoprofen on physiotherapy for limited shoulder movement in breast cancer patients: a single-blinded before-after trial Arch Phys Med Rehabil,87: 1618-1622, 2006.

（日本語）
1 山口　建、QOL重視のがん患者のケア、Bio Clinica、19：63－67、2004
2 山口　建、がん医療の現場から一心通う対話を目指して、ほすぴたるらいぶらり、29: 1、2004
3 山口　建、がん患者さんの不安や悩みの実態、健康づくり、317、18-19、 2004
4 「がんの社会学」に関する合同研究班（山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦）、「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査報告書　概要版一がんと向き合った７，８８５人の声」、2004
5 山口 建、他、がん患者の不安と悩み、治療、87: 1469-1475、 2005
6 「がんの社会学」に関する合同研究班（山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦）、「がんよろず相談Q&A集①一医療費編・経済就労編」、2005
7 山口　建、他、（「がんの社会学」に関する合同研究班）、「がんよろず相談Q&A第２集肝細胞がん編」、 2006
8 山口　建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、医療情報をもっと知りたいとき（小冊子）、2006
9 山口　建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、自宅での療養生活の工夫（小冊子）、2006
10 山口　建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、医療費控除のしくみ（小冊子）、2006
11 山口　建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、在宅でうけられる医療・介護サービス（小冊子）、2006
12 山口　建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、がんの治療費いくら用意すればいいの？（小冊子）、2006
13 山口　建、癌の基礎的理解、がん患者をめぐる社会状況、癌のリハビリテーション、辻哲也他（編）、39-50、2006
14 山口　建、多職種チーム医療　総力戦でケア時代に、がんを生きるガイド「がん難民」にならないために、28-29、2006
20 山口　建、バイオマーカー研究は今、ファルマシア、43：1、2007
21 山口　建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、「がんよろず相談Q&A第３集　抗がん剤治療・放射線治療と食事編」、2007
22 今井聡美、山下浩介、他、ガンのセカンドオピニオンを上手にとるコツ、セカンドピニオンネットワーク編、2004
23 山下浩介、放射線の医療応用、大森豊明（編）、生体物理刺激と生体反応、フジ・テクノシステム社、451-461、2004
24 山下浩介、知っておきたい今日の放射線治療、看護実践の科学、29：4-7、2004
25 宮城洋平、山下浩介他：わかりやすい腫瘍マーカー、かながわ・がんQOL研究会発行、2006
26 今井聡美、山下浩介他：ガンのセカンドオピニオンをとるコツ（第2版）、セカンドオピニオン・ネットワーク編、2007
27 辻　哲也、がん治療におけるリハビリテーション～いま何が求められているか、看護技術、2005
28 辻　哲也、がん治療におけるリハビリテーション～静岡がんセンターの取り組み、看護技術、2005
29 増田芳之、辻　哲也、がん治療におけるリハビリテーション～理学療法・作業療法・言語聴覚療法の実際、看護技術、2005
30 辻哲也、 悪性腫瘍のリハビリテーション. リハビリテーションMOOK　内部障害のリハビリテーション（千野直一、 安藤徳彦編）、 金原出版、 88- 97、 2006
31 辻哲也、 5. 消化器系の癌（食道癌・胃癌・肝癌・胆嚢癌・膵臓癌・大腸癌など） 2）リハビリテーションの要点、 癌（がん）のリハビリテーション、（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 216- 229、 2006
32 辻哲也、 他、 II.癌のリハビリテーションの概要　2.リハビリテーションプログラムの立て方と評価の基本、 癌（がん）のリハビリテーション、金原出版、137-164、2006

33 辻哲也、 III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 2.頭頸部癌 2)リハビリテーションの要点（構音・嚥下障害、 発声障害）、（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 127- 136、2006

34 辻哲也、 III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 2.頭頸部癌 3)リハビリテーションの要点（頸部郭清術後）、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 137- 164、2006

35 辻哲也、 III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 5. 消化器系の癌（食道癌・胃癌・肝癌・胆嚢癌・膵臓癌・大腸癌など）、 2)リハビリテーションの要点、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 216- 229、2006

36 辻哲也、 IV、癌のリハビリテーションについて知っておきたいポイント 5.リンパ浮腫のリハビリテーション、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、金原出版、 384- 403、2006

37 辻哲也、 V、 癌のリハビリテーションの実際、 1.リハビリテーションチームと多職種チーム医療、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 445- 450、2006

38 辻哲也、 V、 癌のリハビリテーションの実際、 2.リスク管理、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 451- 453、2006

39 辻哲也、 V、 癌のリハビリテーションの実際、 3.リハビリテーション科医師の役割、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 454- 455、2006

40 辻哲也、 VI、 緩和ケアとリハビリテーション、 5.緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際、 1)リハビリテーションの概要と物理療法 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 531- 540、2006

41 辻哲也、 他、 頸部郭清術後、 多職種チームのための周術期マニュアル4 頭頸部癌（鬼塚哲郎編）、 メヂカルフレンド、 276－298、 2006

42 辻哲也、 他、 口腔癌、 咽頭癌の周術期リハビリテーション、 多職種チームのための周術期マニュアル4 頭頸部癌（鬼塚哲郎編）、 メヂカルフレンド、 234－261、 2006

43 山田深、 辻哲也、 他、 III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 3.肺癌、 縦隔腫瘍、 胸線腫 2)リハビリテーションの要点、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 176- 188、 2006

44 村岡香織、 辻哲也、 IV.癌のリハビリテーションについて知っておきたいポイント 3.癌患者のフィジカルフィットネス. 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 357- 367、 2006

45 鈴木幹次郎、 辻哲也、 IV.癌のリハビリテーションについて知っておきたいポイント 4.開胸・開腹術後の呼吸合併症予防、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 368- 383、 2006

46 石井健、 辻哲也、他、 V.癌のリハビリテーションの実際、 4.理学療法士の役割、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 456- 465、 2006

47 田尻寿子、辻哲也、 他、 V.癌のリハビリテーションの実際、 5.作業療法士の役割、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 466- 474、 2006

48 田尻寿子、 辻哲也、 他、 VI.緩和ケアとリハビリテーション、 5.緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際 3)作業療法士の役割、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 548- 555、 2006

49 安藤牧子、 辻哲也、 VI.緩和ケアとリハビリテーション、 5.緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際 4)言語聴覚士の役割、 癌（がん）のリハビリテーション（辻哲也、 里宇明元、 木村彰男編）、 金原出版、 556- 564、 2006

50 辻哲也、 他、 がん治療のリハビリテーション 頸部郭清術後のリハビリテーション、 看護技術 52: 235- 241、 2006

51 辻哲也、非運動器疾患における運動器の問題、リハビリテーション医学 43: 236- 242、 2006

52 辻哲也、 体と心をケアする処方箋　がん治療に伴う嚥下障害とその対策、 がんサポート 35: 86- 93、 2006
53 松本真以子、 辻哲也、 臨床にいかすリハビリテーション診断学 リハビリテーション患者にみられる下肢の浮腫、 臨床リハ 15: 50-55、 2006
54 安藤牧子、辻哲也、【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】進行がん患者の嚥下障害・発声障害・高次脳機能障害へのアプローチ、 緩和ケア 16: 36- 43、 2006
55 岡山太郎、 辻哲也、 【がん治療のリハビリテーション】 消化器系がん患者に対する周術期リハビリテーション一食道癌を中心に一、 看護技術 52: 66- 72、 2006
56 安藤牧子、辻哲也、 【がん治療のリハビリテーション】 摂食・嚥下リハビリテーション、 看護技術 52: 325- 333、 2006
57 青木朝子、辻哲也、 【がん治療のリハビリテーション】 リンパ浮腫のリハビリテーション、 看護技術 52: 629- 633、 2006
58 松本真以子、辻哲也、 他、 【がん治療のリハビリテーション】 四肢切断術後のリハビリテーション、 看護技術、 52: 717- 725、2006
59 田沼明、辻哲也、 プライマリ・ケア医のための緩和リハビリテーションの心得、 JIM 16: 752- 757、 2006
60 田沼明、辻哲也、【がん治療のリハビリテーション】 廃用症候群,体力低下に対するリハビリテーション、 看護技術、 52: 804- 808、 2006
61 田沼明、辻哲也、 浮腫のあるがん患者へのリンパドレナージ、圧迫療法、 看護技術、 52: 864- 868、 2006
62 石川　睦弓、自己決定を支えるためのポイント、メディカル出版、4：1107-1112、2006
63 石川　睦弓、終末期におけるQOL向上のための課題と対応、4：1230-1239、2006
64 堀内智子、“相談”と“情報提供”による総合的な患者・家族支援、南山堂、 57：2219－2225、2006

H．知的財産権の出願・登録状況

１．特許の出願

発明の名称　類似文章検索プログラム
出願番号　　特願２００７－４６９２６
出願日　　平成１９年２月２７日

２．実用新案登録
なし

３．その他
なし

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

書籍：外国語

著者氏名	論文 タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版 年	ページ
Yamaguchi K, et al.	The views of 7,885 people who faced up to cancer	Joint Study Group on the Cancer Sociology	The views of 7,885 people who faced up to cancer, (in English, Portuguese, Korean, Chinese)		Japan	2006	
Yamaguchi K, et al.	verything you need to know about cancer: Collection of Q&A No.1	Joint Study Group on the Cancer Sociology	Everything you need to know about cancer: Collection of Q&A No.1 (in English, Portuguese, Korean, Chinese)		Japan	2006	

書籍：日本語

著者氏名	論文 タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版 年	ページ
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査報告書　概要版―がんと向き合った7，885人の声」	「がんの社会学」に関する合同研究班	「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査報告書概要版―がんと向き合った7，885人の声」		静岡	2004	
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	がんよろず相談Q&A第1集医療費編・経済就労編	「がんの社会学」に関する合同研究班	がんよろず相談Q&A第1集医療費編・経済就労編		静岡	2005	
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	がんよろず相談Q&A第2集肝細胞がん編	「がんの社会学」に関する合同研究班	がんよろず相談Q&A第2集肝細胞がん編		静岡	2006	

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16ー18年度】

山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	医療情報をもっと知りたいとき	「がんの社会学」に関する合同研究班	医療情報をもっと知りたいとき（小冊子）		静岡	2006	
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	自宅での療養生活の工夫	「がんの社会学」に関する合同研究班	自宅での療養生活の工夫（小冊子）		静岡	2006	
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	医療費控除のしくみ	「がんの社会学」に関する合同研究班	医療費控除のしくみ（小冊子）		静岡	2006	
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	在宅でうけられる医療・介護サービス	「がんの社会学」に関する合同研究班	在宅でうけられる医療・介護サービス（小冊子）		静岡	2006	
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	がんの治療費いくら用意すればいいの？	「がんの社会学」に関する合同研究班	がんの治療費いくら用意すればいいの？（小冊子）		静岡	2006	
山口　建、他	癌の基礎的理解 がん患者をめぐる社会状況	辻哲也、他	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	39-50
山口建、石川睦弓、山下浩介、小林国彦、他	がんよろず相談Q&A第3集 抗がん剤治療・放射線治療と食事編	「がんの社会学」に関する合同研究班	がんよろず相談Q&A第3集 抗がん剤治療・放射線治療と食事編		静岡	2007	
山下浩介、他	放射線の医療応用	大森豊明	生体物理刺激と生体反応	フジ・テクノシステム	東京	2004	451-461
宮城洋平、山下浩介、他	わかりやすい腫瘍マーカー	かながわ・がんQOL研究会	わかりやすい腫瘍マーカー	かながわ・がんQOL研究会	神奈川	2006	1-32
今井聡美、山下浩介、他	ガンのセカンドオピニオンをとるコツ（第2版）	セカンドオピニオン・ネットワーク	ガンのセカンドオピニオンをとるコツ（第2版）	セカンドオピニオン・ネットワーク	東京	2007	1-24

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

辻哲也、他	周術期リハビリテーション	坪佐恭宏	多職種チームのための周術期マニュアル 3 胸部食道癌	メヂカルフレンド	東京	2004	2004
辻哲也、 他	周術期嚥下訓練	坪佐恭宏	多職種チームのための周術期マニュアル 3 胸部食道癌	メヂカルフレンド	東京	2004	70－90
辻哲也	周術期リハビリテーション	近藤晴彦	多職種チームのための周術期マニュアル 1 肺癌	メヂカルフレンド	東京	2004	60－82
辻哲也	呼吸理学療法	田中桂子	がん患者の呼吸困難マネジメント	照林社	東京	2004	48－52
辻哲也	悪性腫瘍のリハビリテーション	保岡正治	ペインクリニックに必要なリハビリテーションの知識	克誠堂	東京	2005	160－170
辻哲也	廃用症候群	石神重信、宮野佐年、米本恭三	最新リハビリテーション医学 (第2版)	医歯薬出版	東京	2005	74－85
辻哲也	副作用・後遺症の対処法	NHKがんサポートキャンペーン事務局	がんを生き抜く実践プログラム	NHK出版	東京	2006	116－127
辻哲也	進行がんと生きる がんのリハビリテーション	日経メディカル	がんを生きるガイド	日経BP社	東京	2006	154－155
辻哲也	残された時間を過ごす 家庭でもできる終末期ケア	日経メディカル	がんを生きるガイド	日経BP社	東京	2006	166－167
辻哲也	悪性腫瘍のリハビリテーション	里宇明元，才藤栄一，出江紳一	先端医療シリーズ36「リハビリテーション医学の新しい流れ」	先端医療技術研究所	東京	2006	7－13

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

辻哲也	悪性腫瘍（がん）のリハビリテーション	三四会医学部新聞編集室	慶應義塾医学部新聞	三四会医学部新聞編集室	東京	2006	2
辻哲也	悪性腫瘍のリハビリテーション	千野直一、安藤徳彦	リハビリテーション MOOK 内部障害のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	88-97
辻哲也	5. 消化器系の癌（食道癌・胃癌・肝癌・胆嚢癌・膵臓癌・大腸癌など） 2）リハビリテーションの要点	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	216-229
辻哲也、他	II.癌のリハビリテーションの概要 1.癌のリハビリテーションの歴史と基本的概念 癌（がん）のリハビリテーション	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	53-59
辻哲也、他	II.癌のリハビリテーションの概要 2.リハビリテーションプログラムの立て方と評価の基本 癌（がん）のリハビリテーション	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	137-164
辻哲也	III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 2.頭頸部癌 2)リハビリテーションの要点（構音・嚥下障害，発声障害）	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	127-136

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

辻哲也	III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 2.頭頸部癌 3)リハビリテーションの要点(頚部郭清術後) 癌(がん)のリハビリテーション	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌(がん)のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	137-164
辻哲也	III.各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 5. 消化器系の癌(食道癌・胃癌・肝癌・胆嚢癌・膵臓癌・大腸癌など) 2)リハビリテーションの要点	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌(がん)のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	216-229
辻哲也	IV.癌のリハビリテーションについて知っておきたいポイント 5.リンパ浮腫のリハビリテーション、癌(がん)のリハビリテーション	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌(がん)のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	384-403
辻哲也	V. 癌のリハビリテーションの実際 1.リハビリテーションチームと多職種チーム医療	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌(がん)のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	445-450
辻哲也	V. 癌のリハビリテーションの実際 2.リスク管理	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌(がん)のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	451-453

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

辻哲也	V. 癌のリハビリテーションの実際 3. リハビリテーション科医師の役割	辻哲也、 里宇明元、 木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	454-455
辻哲也	VI. 緩和ケアとリハビリテーション 5. 緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際 1)リハビリテーションの概要と物理療法	辻哲也、 里宇明元、 木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	531-540
辻哲也、他	頚部郭清術後	鬼塚哲郎	多職種チームのための周術期マニュアル 4 頭頚部癌	メヂカルフレンド	東京	2006	276-298
辻哲也、他	口腔癌、咽頭癌の周術期リハビリテーション	鬼塚哲郎	多職種チームのための周術期マニュアル 4 頭頚部癌	メヂカルフレンド	東京	2006	234-261
山田深、 辻哲也、他	III. 各臓器別の癌の特徴と診断・治療・リハビリテーションの要点 3. 肺癌、縦隔腫瘍，胸線腫 2) リハビリテーションの要点	辻哲也、 里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	176-188
村岡香織、 辻哲也	IV. 癌のリハビリテーションについて知っておきたいポイント 3. 癌患者のフィジカルフィットネス	辻哲也、 里宇明元、 木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	357-367

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16ー18年度】

鈴木幹次郎、辻哲也	IV.癌のリハビリテーションについて知っておきたいポイント4.開胸・開腹術後の呼吸合併症予防	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	368-383
石井健、辻哲也、他	V. 癌のリハビリテーションの実際 4.理学療法士の役割	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	456-465
田尻寿子、辻哲也	V. 癌のリハビリテーションの実際 5.作業療法士の役割	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	466-474
田尻寿子、辻哲也、他	VI. 緩和ケアとリハビリテーション 5.緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際 3)作業療法士の役割	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	548-555
安藤牧子、辻哲也	VI. 緩和ケアとリハビリテーション 5.緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際 4)言語聴覚士の役割	辻哲也、里宇明元、木村彰男	癌（がん）のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	556-564

雑誌：外国語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamaguchi K, Ishikawa M, et al.,	Cancer patients' distress and inquiries : proposal of four-level classification based on consultation service and questionnaire survey.	Cancer Science	98	612-616	2006

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16ー18年度】

Okamoto N, Yamashita K, et al,.	5-Year Survival Rate for Primary Cancer Site at Cancer-Treatment-Oriented Hospitals in Japan	Asian Pacific J Cancer Prev	7	46-50	2006
Yoshimura A, Kobayashi K, et al,.	Cross-cultural validation of the Japanese Functional Assessment of Cancer Therapy-Anemia	*J Nippon Med Sch.*	71	314-322	2004
Morita S, Kobayashi K, et al,.	Weekly assessment of quality of life in patients with advanced non-small-cell lung cancer during chemotherapy in a randomized phase	*Ann. Cancer Res. Ther.*	12	105-117	2004
K. Kobayashi, et al,.	Validation of the Care Notebook for measuring physical, mental and "life well-being" of patients with cancer	*Qual Life Res*	14	1035-43	2005
Morita S, Kobayashi K, et al,.	Analysis of incomplete quality of life data in advanced stage cancer: a practical application of multiple imputation.	*Qual Life Res*	14	1533-44	2005
Hase K, Tsuji T, et al.	The effect of zaltoprofen on physiotherapy for limited shoulder movement in breast cancer patients: a single-blinded before-after trial	Arch Phys Med Rehabil	87	1618-1622	2006
Tsuji T, et al.	Electromyographic findings after different selective neck dissections	Laryngoscope	117	319-322	2007

雑誌：日本語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山口建	QOL重視のがん患者のケア	Bio Clinica	19	63-67	2004
山口建	がん医療の現場から ー心通う対話を目指してー	ほすぴたるらいぶらり	29	1	2004
山口建	がん患者さんの不安や悩みの実態	健康づくり	317	18-19	2004
山口建、他	がん患者の不安と悩み	治療	87	1469-1475	2005
山口建	多職種チーム医療　総力戦でケア時代に	がんを生きるガイド「がん難民」にならないために		28-29	200

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

山口建	バイオマーカー研究は今	ファルマシア	43	1	2007
山下浩介	知っておきたい今日の放射線治療	看護実践の科学	29	4-7	2004
山下浩介	放射線治療と患者ケア	治療	87	1543-1548	2005
久保田彰、山下浩介、他	下咽頭扁平上皮癌に対する化学放射線同時併用療法の検討	頭頸部がん	32	541-547	2005
井沢純一、山下浩介、他	患者から医学生へのメッセージ	ホスピスと在宅ケア	13	214-219	2005
野村好弘、小林国彦、他	末期がん患者の家族に対する不告知と診療契約上の付随義務違反	賠償科学	32	125-157	2004
小林国彦	肺がんの在宅医療	治療	87	1488-92	2005
辻哲也	【呼吸困難のマネジメント】楽な呼吸をどうするか－呼吸困難に対するリハビリテーション－	ターミナルケア	14	301-304	2004
辻哲也	ターミナルケア ヘリスコープ 緩和医療とリハビリテーション医療の共通性	ターミナルケア	14	437	2004
辻哲也	がん治療におけるリハビリテーション いま何が求められているか	看護技術	51	54-58	2005
辻哲也	がん治療におけるリハビリテーション 静岡がんセンターの試み	看護技術	51	63- 67	2005
松本真以子、辻哲也	癌性疼痛に対する物理療法・運動療法とエビデンス	EBM ナーシング	5	40-47	2005
辻哲也	がん治療におけるリハビリテーション 緩和ケアにおけるリハビリテーションの役割	看護技術	51	323-327	2005
辻哲也	がん治療後の患者ケア－家庭医に知ってもらいたいこと－リンパ浮腫の管理	治療	87	1592- 1599	2005
辻哲也	【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】進行がん患者に対するリハビリテーション	緩和ケア	16	6-11	2005

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

田尻寿子、 辻哲也、他	がん治療のリハビリテーション 乳がん・婦人科がん患者に対する周術期リハビリテーション	看護技術	51	148- 155	2006
松本真以子、 辻哲也	【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】癌性疼痛に対する物理療法の実際	緩和ケア	16	18-22	2006
田沼明、 辻哲也	【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】廃用症候群の予防の実際	緩和ケア	16	23-27	2006
田尻寿子、 辻哲也、他	【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】日常生活動作（ADL)の障害へのアプローチ	緩和ケア	16	28- 35	2006
青木朝子、 辻哲也	リンパ浮腫治療のエビデンス	緩和ケア	16	44- 48	2006
辻哲也、 市川るみ子、他	がん治療のリハビリテーション 頚部郭清術後のリハビリテーション	看護技術	52	235-241	2006
辻哲也	非運動器疾患における運動器の問題	リハビリテーション医学	43	236-242	2006
辻哲也	体と心をケアする処方箋　がん治療に伴う嚥下障害とその対策	がんサポート	35	86-93	2006
松本真以子、 辻哲也	臨床にいかすリハビリテーション診断学 リハビリテーション患者にみられる下肢の浮腫	臨床リハ	15	50-55	2006
安藤牧子、 辻哲也	進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】進行がん患者の嚥下障害・発声障害・高次脳機能障害へのアプローチ	緩和ケア	16	36-43	2006
岡山太郎、 辻哲也	がん治療のリハビリテーション】 消化器系がん患者に対する周術期リハビリテーション ー食道癌を中心にー	看護技術	52	66-72	2006
田尻寿子、 辻哲也、他	【がん治療のリハビリテーション】 乳がん・婦人科がん患者に対する周術期リハビリテーション	看護技術	52	148-155	2006
安藤牧子、 辻哲也	【がん治療のリハビリテーション】 摂食・嚥下リハビリテーション	看護技術	52	325-333	2006
青木朝子、 辻哲也	がん治療のリハビリテーション】 リンパ浮腫のリハビリテーション	看護技術	52	629-633	2006

別紙

成果の刊行に関する一覧表【平成16〜18年度】

松本真以子、 辻哲也、他	【がん治療のリハビリテーション】 四肢切断術後のリハビリテーション	看護技術	52	717-725	2006
田沼明、 辻哲也	プライマリ・ケア医のための緩和リハビリテーションの心得	JIM	16	752-757	2006
田沼明、 辻哲也	【がん治療のリハビリテーション】廃用症候群,体力低下に対するリハビリテーション	看護技術	52	804-808	2006
田沼明、 辻哲也	浮腫のあるがん患者へのリンパドレナージ,圧迫療法	看護技術	52	864-868	2006